

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

平成29年7月28日 VOL. 40

県内の生活支援コーディネーター等が本市の取組を学びました

平成29年7月24日（月）に、「生活支援コーディネーター助け合い活動勉強会」（主催：（公財）さわやか福祉財団）が行われ、県内市町が設置している生活支援コーディネーターなど17人が藤枝市内3つの「居場所」の取組を見学したり、活動団体の代表者等に話を聞いたりして、支え合いの地域づくりについて熱心に学びました。

この勉強会は、平成29年4月から全ての市町村で実施している介護予防・日常生活支援総合事業（以下「総合事業」）のサービスで、地域住民のボランティアが主体となって提供するいわゆる「サービスB」について、県内で訪問型サービス及び通所型サービスのいずれも実施している市（県内では藤枝市、静岡市、浜松市のみ）として、藤枝市の取組が注目され、生活支援コーディネーターの勉強会の訪問先として選ばれたものです。

みんなの居場所「かいらハウス」



勉強会では最初に、みんなの居場所「かいらハウス」（前島2丁目）を訪問しました。代表の今野智子さんは、「誰もが同じ大切な存在であり、個性の違いを認め合うことの必要性を感じ、皆が良いと認め合うという意味で「かいら（皆良）ハウス」という名前の、高齢者も障害者も子どもも、みんながつながる居場所を立ち上げた思いと経緯を語りました。

駿河台支えあいの会「ぼちぼち」

次に駿河台地区で支え合いの活動を行っている「駿河台支えあいの会『ぼちぼち』」の役員による説明を聞きました。代表者の松井邦興さんは、地域で住民福祉懇談会を自主的に開催し、高齢化社会に対応するための取組を住民主体で考えて形にしたのが「ぼちぼち」の支え合いの活動だということなど、団体の設立の経緯を説明しました。また、総合事業の「サービスB」についても取り組んでいきたいと語りました。



おはなし長屋



市内最後の訪問先として、居場所「おはなし長屋」（藤岡5丁目）を訪問しました。代表の松本治雄さんは、定年退職に際し、退職後の自分の居場所をつくるために人が集まる場所をつくりたかったと話し、立ち上げの経緯を説明しました。食事会の開催など活発な活動の様子を説明すると同時に、地域の運営スタッフの力によって支えられていることを強調しました。

市内の活動団体の取組を学んだあと、藤枝市における支え合いの活動の推進と総合事業の「サービスB」の取組について、地域包括ケア推進課担当職員が説明をしました。支え合いの地域づくりのモデルとして上記の団体を示し、市内全域に広げたいと意気込みを語りました。



健康福祉部 地域包括ケア推進課

TEL 054-643-3225 E-mail chiikicare@city.fujieda.lg.jp